



認定看護師紹介 / 認知症看護認定看護師

## 田中 陽子（たなか ようこ）

内閣府の2014年度版高齢社会白書によると、高齢化率は2013年には25.1%で、4人に1人が高齢者となりました。2035年には、高齢化率は33.4%、3人に1人が高齢者になると予測されています。認知症の有病率は、2012年時点で15%と推計されており（厚生労働科学研究 筑波大学 朝田教授）、年齢が5歳階級上がるごとに倍増するとされており、認知症有病率は今後さらに増加すると予測されます。高齢者は複数の疾患を持つことが多く、認知症を持つ高齢者が医療を受けられる機会も増えていくと考えられます。

認知症看護認定看護師は2006年

に認定が開始され、2015年には全国で472名が活動しています（日本看護協会認定部）。認知症看護認定看護師は、認知症の人の状態像を統合的にアセスメントし、ケアの実践、ケア体制づくり、介護家族のサポートを行い、生活・療養環境を調整するとともに、認知症の人の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアをスタッフや多職種、関係者と協働して考え、提供しています。

私は現在、老年科のある西病棟15階に勤務しており、年間約100名の認知症の方との出会いがあります。認知症の人は、少し前の記憶が失われていく状況にありながら、入院を要する場面

では苦痛や環境の変化に対応しきれないことがあっても、一生懸命に生きようとする人々です。病棟では、地域連携センターと定期的に多職種カンファレンスを行い、認知症のご本人と介護されるご家族を支える方法を検討しています。認知症の方の苦痛や不安をできるだけ取り除き、こころもからだもより健康に近づけ、その方の魅力をより輝かせるために、皆さまと連携して取り組んでまいりたいと考えております。



People



## 歯科診療科紹介 / 週周期口腔支援センター 医科歯科連携の拠点を目指して

2012年に改正されたがん対策推進基本計画において、各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など、患者の更なる生活の質の向上を目指すため、医科歯科連携の充実が盛り込まれました。当院においては、がんの治療のみならず心臓血管病の手術や臓器移植手術後肺炎などの術後合併症の減少、早期の経口摂取を可能とすることを目的に、かねてより医科と歯科が連携した診療を実践しておりました。

近年、化学療法、放射線療法の普及に伴い、口腔粘膜炎や顎骨壊死などの口腔内の副作用が報告されるようになりました。このような疾患の予防や治療は、従来の歯科診療の枠を超えてい

る場合もあり、各診療科で対応することが困難な場合が多いため、この度歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士がそれぞれの専門性をもって横断的に診療に係ることによって、迅速に口腔内の問題を解決出来るよう2015年4月1日に当センターを設置いたしました。

当センターでは、歯科部門専門外来と連携して以下のような診療を行ってまいります。

- 1) 全身麻酔前の口腔内の精査、応急的な歯科治療ならびに術前のクリーニング
- 2) がん治療中における口腔粘膜炎などの有害事象の予防と症状緩和のため、



セルフケアの指導と投薬や歯科処置  
3) 顎骨壊死の予防の為、BP製剤などの骨代謝調節薬投薬患者への口腔内精査ならびに、必要な歯科治療と定期的な口腔内のメンテナンス。

更に、退院され社会復帰をされる際には、良い口腔機能を保ち、生活の質を維持していただくため、かかりつけ歯科医院や地域歯科医院へ引き続き受診していただくよう退院時紹介を行っております。今

後、当センターでは、病院内の医科歯科連携、ならびに地域医療機関との連携の拠点となることを目指してまいります。

## Dental Department



お知らせ

## Information

### 形成外科は2015年4月より新患日が変更となりました。

新患日：月・木・金（祝祭日・年末年始を除く）  
TEL：形成外科外来 022-717-7748

### 歯科麻酔疼痛管理科は2015年4月より 新患日・再来日が変更となりました。

新患日・再来日：火・水・木・金（金は午前のみ、祝祭日・年末年始を除く）  
TEL：歯科麻酔疼痛管理科 022-717-8420

### 編集後記

新年度がスタートし、新たな気持ちで希望に胸膨らませている方も多くいらっしゃると思います。4月より地域医療連携室係長に就任いたしました山田と申します。6月7日（日）には、当院開設百周年記念 第12回市民公開講座を控えております。連携室一同、一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。（地域医療連携係 山田こずえ）

### 編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター  
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132  
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp  
ご意見・ご要望は、地域医療連携センターまでお問い合わせください。



ニュース

## 新病院長のご挨拶

4月1日より病院長に就任しました八重樫 伸生（やえがし のぶお）です。どうぞよろしくお願いたします。

私は2010年より当時の里見病院長の下で副院長、卒後研修センター長、臨床研究推進センター長、医療安全推進室長などの職責を果たす中で病院運営に深く関わってまいりました。震災後は東北大学が進めている復興事業の一つである東北メディカル・メガバンク事業にも副機構長として携わり、循環型医師派遣制度の構築や運営に尽力してまいりました。また自身の専門では、婦人科長、産科長、周産母子センター長の役職を務めつつ、東北全域の周産期医療にも目を配ってまいりました。これまで大学病院にとって地域連携がいかに重要であるか、身をもって経験してきましたので、東北大学病院が長年にわたって築き上げてきた地域の関連病院・診療所との連携を今後も大切に、さらに強化してまいりたいと考え

ております。

医療体制に関して、今後数年間のうちに対応しなければならない最大の課題は専門医制度改革とされます。新制度では専門医を認定するのは各学会ではなく、新たに設立された一般社団法人日本専門医機構となります。19の基本領域（従来からある内科、外科、小児科、産婦人科などの診療科）の各学会が機構の指示の下にカリキュラム等を策定しており、数年以内には“機構の認定する専門医”が輩出される制度に順次移行していくでしょう。従来は各学会で独自に策定していた認定基準や指導体制・指導医制度は、学会によってそれぞれ大きく異なりましたが、今後はある程度標準化されることとなります。おそらく大学病院かそれに準ずる病院が基幹施設となり、それを中心として多くの病院・診療所等が連携施設として加わり、研修病院群が形成されるでしょう。基幹施設が策定し管理するプログ

ラムの下で研修を受けなければ専門医を取得できない体制となります。まだまだ未確定の部分が多いとはいえ、国がそのような方向に舵を切っていくことは確実です。私たちは国の動向に最大限の注意を払いながら、東北地域において専門医を的確に育成できるよう、新専門医制度に即した体制をいち早く確立することが必要とされています。約半世紀前に国内でも最も先進的な研修体制をいち早く整えた長陵協議会（旧三者協）の気概が、今改めて求められています。

皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願申し上げます。



# with

東北大学病院  
地域医療連携センター通信  
[With/ウィズ]

## vol.33

2015年5月15日発行

News



東北大学病院



新診療科長挨拶 / 呼吸器外科

## 岡田 克典（おかだ よしのり）

2015年4月1日付けで、近藤 丘教授の後任として呼吸器外科長を拝命いたしました岡田 克典（おかだ よしのり）です。どうぞよろしくお願いたします。

呼吸器外科の主な対象疾患は、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、気胸、胸膜悪性中皮腫、終末期慢性進行性肺疾患（肺移植）などで、これまでも地域の先生方から多数の患者さまのご紹介をいただき、年間250例程度の手術を行ってまいりました。当科では、2015年4月現在9名の呼吸器外科専門医を擁し、手術の前週には科長以下スタッフ全員による術前カンファレンスを行うなどして、お一人お一人の病状に応じた最善の外科治療をご提供できるよう心がけております。肺

癌の手術においては、胸腔鏡を併用した小開胸下の肺切除術、いわゆるhybrid VATSを多くの患者さまに適用しており、根治性と低侵襲性との両立を目指しています。病院の特色上、肺癌症例では呼吸器や循環器などの基礎疾患合併例、胸壁や大血管への浸潤例などを多数ご紹介いただいておりますが、健康診断で発見された一般的な肺癌疑い例の精査・加療ももちろんお引き受けしております。どうぞお気軽にお問い合わせ、ご紹介をいただければ幸いです。また、東北大学病院は全国に9カ所ある肺移植実施施設の一つに認定されており、東北・北海道においては唯一の肺移植施設です。2010年に改正臓器移植法が施行されてからは、月1例程度のペースで肺移植を行う

ようになりました。主な適応疾患は間質性肺炎、肺気腫、肺リンパ管筋腫症、肺動脈性肺高血圧症性などです。今後も、肺癌などの一般呼吸器外科診療と肺移植医療を当科の診療の両輪として、地域の皆さまのお役にたてるよう全力で取り組んでまいります。引き続きご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願申し上げます。



## People



医科診療科紹介

## 整形外科

整形外科は運動器（関節や脊椎などの骨格とそれを動かす神経、筋、靭帯など）の疾患を扱う診療科です。診療科名に「外科」という言葉が使われてはいますが、内科的な治療（薬や理学療法）と外科的な治療（手術）の両方を行っています。

近年、手術においては最小侵襲が求められる時代になっており、時代の要求に応える医療すなわち関節鏡視下手術の普及に力を入れたいと考えております。高齢者にみられる骨粗鬆症、脊椎症、関節症はもちろんのこと若年者に多いスポーツ障害などにも積極的に取り組み、運動器疾患の予防、治療を通して患者さまのQOLを高めていきたいと考えております。

群には、脊柱短縮骨切り術を行い良好な成績が得られています。

### 腫瘍グループ

**対象疾患：**骨や軟部組織に発生した良性・悪性腫瘍および腫瘍類似疾患  
**治療：**病理組織診断が必要な場合は、外来または入院の上、生検（組織採取検査）を行います。腫瘍のできる場所、性状は千差万別です。個々の症例に応じて適切な治療法を選択していく必要があります。悪性腫瘍の場合は化学療法および放射線療法を必要とする場合があります。患肢温存手術を積極的に行っています。

### リウマチグループ

**対象疾患：**関節リウマチ、自己免疫疾患に伴う関節炎、原因不明の関節炎など  
**治療：**抗リウマチ薬でリウマチのコントロールを行います。外科的治療として、リウマチで変形し疼痛の強い関節に、人工関節置換術、関節形成術、関節固定術を行います。手の伸筋腱断裂に対しては、腱再建を行います。

### 骨代謝グループ

**対象疾患：**骨粗鬆症、骨代謝性疾患  
**治療：**最新の骨粗鬆症診断ガイドラインに沿って治療を行っています。全身の計測が可能なDEXA装置による骨密度の測定を行っています。仙台市の骨粗鬆症2次検診施設となっています。

### 膝・スポーツグループ

**対象疾患：**変形性膝関節症、特発性大腿骨顆部骨壊死や、スポーツ選手に多い膝前十字靭帯損傷、半月板損傷、骨軟骨損傷、膝蓋大腿関節障害など  
**治療：**変形性膝関節症に対しては大腿骨内反骨切り術、高位脛骨骨切り術、人工関節置換術などを、前十字靭帯損傷に対しては靭帯再建術を、また骨軟骨骨折や離断性骨軟骨炎に

## Department

対しては骨軟骨移植を行っています。関節鏡視下に行うことで、手術侵襲を最小限に抑えています。

### 小児・股関節グループ

**対象疾患：**小児は先天性股関節脱臼など、成人は変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症、臼蓋形成不全症など  
**治療：**変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症に対して各種の大腿骨骨切り術や骨盤骨切り術、人工股関節置換術を行っています。当科では東北大学倫理委員会の審査を経て、院内ボーンバンク（骨の銀行）を開設、整備し、広範に骨欠損がある患者さまに対しても様々な手術が行えるよう準備しています。



肩関節の鏡視下腱板修復術



医局員



赤ちゃんからお年寄りまで年齢・性別を問わずあらゆる患者さまが対象です

詳しくは当科ホームページもご参照ください  
<http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp/>



新診療科長挨拶 / 放射線診断科

## 高瀬 圭（たかせ けい）

2015年2月1日をもちまして放射線診断科長を拝命いたしました高瀬 圭（たかせ けい）です。

心・血管系の画像診断とIVR（インターベンショナルラジオロジー）を特に専門としております。国立循環器病研究センター等にてIVRと心血管イメージングの臨床と研究に従事しましたが、石巻赤十字病院等一般病院にも長く勤務し臨床放射線診断学全般を行ってまいりました。放射線診断の豊富な臨床経験を活用し、カテーテルや画像ガイド下治療の技術を用いて低侵襲の治療を行うこと、画像診断を通じて病院全体の利便性向上に役立つことに尽力したいと考えております。

当科はCT・MRI・核医学・血管造影および依頼された単純X線写真を年間で計55000件程読影し、さ

らに放射線技師との連携により放射線部での画像検査管理を行っております。良質な画像診断は病院診療全体のQuality Controlのために必須であり、脳神経・頭頸部・胸部・乳腺・骨軟部・腹部・泌尿器・婦人科・心大血管・救急・小児・核医学といった多岐にわたる分野のサブスペシャリティー毎に、専門性を持った放射線診断医による詳細で正確な画像診断を施行します。IVRは全身のほとんどの領域を行っており、腫瘍の化学塞栓療法、血管病変、骨粗鬆症、内分泌疾患、先天性心疾患、術前術後IVR等々に対応しています。外傷や産後出血等の緊急IVRにも対応しています。

大学病院での研究面では、詳細な画像解析に基づく臨床研究と新しいIVR治療法を開発することを当科の

使命として行い、東北地区において最先端の放射線診断学研究を行う拠点となっていきたくと考えます。

増加し続ける画像診断業務にはMMWINの活用も含めて地域医療の需要にできるだけ応えていきます。特殊なIVRは病一病連携を通じて大学病院にある程度集約して行っております。今後も当科への多くのご依頼やご紹介、またご要望とご指導をよろしくお願申し上げます。



## People